

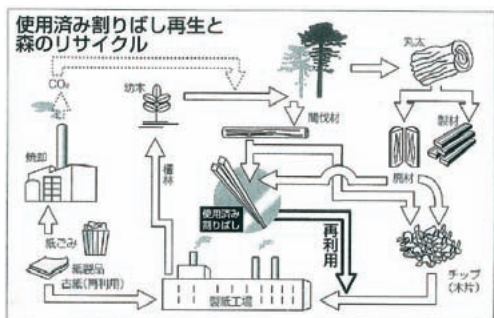
RRR 環境大臣賞(1件)
Reduce Reuse Recycle

環境大臣賞 「個人・グループ・学校」分野	受賞者名	向井 哲朗
	所在地	鳥取県米子市
	受賞テーマ	『使用済み割り箸の再資源化活動』

同氏は、「子どもも大人も身近な環境問題を五感で感じる事が課題解決へ繋がる近道」との発想から、1990年に子どもを中心としたエコクラブ「彦名地区チビッ子環境パトロール隊」を結成し、体験型環境学習の指導をしている。同氏が、子ども達との勉強会で質問された「教科書には緑が大切と書いてあるのに、おじさんの紙工場では森林破壊しているの?」という問いかけは、全国で初めての試みでもあった、使用済みの割り箸を回収し、製紙工場で紙資源として再利用する取り組みへと発展した。

社員食堂での割り箸回収がスタートしたのは、1994年。翌年には、地元温泉旅館の協力を得て、温泉街の使用済み割り箸を回収するシステムを構築した。米子市内の各郵便局やスーパー等に割り箸回収箱を設置してもらい、県内の学校、企業、飲食店、行政へと回収の輪が広がった。3膳の使用済みの割り箸でA4コピー用紙が1枚か、ハガキ1枚に再生される。また、2,500膳ではティッシュボックス15箱に生まれ変わる。鳥取県米子市発のこの取り組みは、今では全国運動として定着し、点から線、線から面の活動展開となった。回収当初から今日までに(1995年~2011年3月)、全国各地から送られてきた使用済み割り箸は、製紙会社全体(全国9工場で受入れ)で6,200トン。割り箸に含まれる1/2相当の繊維分の3,100トンが、紙に再生されている。紙にならない残りの樹脂やリグニン等の木質部分は、発電用ボイラーの燃料に利用されるため、その分の化石燃料が節約され、CO₂の発生が抑制され、地球温暖化防止にも寄与するリサイクルになっている。

1999年夏には「割り箸の夢とロマンの旅を語ろう」と米子市で『全国割り箸サミット』を開催、その後も7回米子で開催、香川県高松市でも開催している。使い捨てられていた割り箸が紙に生まれ変わって再び役に立つという内容が反響を呼び、ゴミの減量、資源保護、節約などの環境意識の啓発、教育面で大きな共感を得ている。割り箸回収運動は「地球を救うために、いま私たちが誰でも身近にできること」として資源を無駄にしないライフスタイルとして、社会に浸透しつつある。



使用済み割りばし再生と森のサイクル



子ども達書いたPRポスター



町内に設置している割り箸回収ボックス



来県したロシアの皆さんに体験学習の指導